

名前からして景気がいいゴールドマン・サックス。掲載しきれなかつた「最強ぶり」を少しご紹介しよう。

### 出張の待遇も最強

ゴールドマン・サックスでは国内でも海外でも出張が多い。飛行機利用でのビジネスクラス、新幹線のグリーン車利用は当たり前だが、利用するホテルも超一流だ。海外出張、例えばNYなら5番街の格式高いピールやプラザアーテネに始まり、国内ならリツツカーレトンクラスが当たり前。

最高の仕事をするために最高の環境を用意すると夜頑張る人には夜食代も多くの社員が深夜まで働くゴールドマン・サックス。夜食代として一人250円前後まで使うことが多い。もちろん戻ってきた後は、深夜までもうひと頑張りだ。

ゴールドマン・サックスで出張の待遇も最強

ゴールドマン・サックスで出張の待遇も最強

いだけに、住環境は会社近くの麻布、青山などに数十万円の家賃で借りる人が多いとか。

### 面接人数も最強!?

チームで摩擦なく働くことが求められるため、採用時の際の面接の数と会う人数は極めて多い。ゴー

ルドマン側も現場の社員と会う機会を積極的に用意する。転職でも数回10人弱、新卒採用ともなれば20~30人と会うことになる人も珍しくない。

採用は部門ごとに行うため、ある部署でだめでも他の部署から声がかかるということもある。

なお採用情報は随時ホームページにアップされている。それによると現段階で、すでに07年4月入社向けの国内四年生大学の新卒採用は終了しているが、海外の外国の卒業予定者には門戸が開かれている。また中途採用は通年行われており、日本語と英語の履歴書を送ることになる。また社員のつながりから声がかかることがある。

## 強さは14の経営理念の浸透にあり

価されるとかね」  
山崎氏は続ける。

「でもそれって本来当たり前のことでしょ。ゴールドマン・サックスは日本の金融業の中に、世界のデファクトスタンダードを持った

チームワークについては、

社員が上司から「仕事をIで語ってはいけない、Weで語れ」と戒められた話は逸話になっていたほどだ。

そして最後の人事評価。これは1人が18人から評価される360度評価が実施され、肩書きがつくほど部下からどう思われているかをきちんと評価されるのだ。こうした徹底した人間作りが、ゴールドマン・サックスの強さを揺らがないものにしているのかもしれない。

持田さんが、トップ自らが仕事を取つてることだって、そういうお金をたくさんもらっているんだから頑張るのは当たり前。当たり前を当たり前にできると

事も行うとか、当たり前のことでしょう。

例えは、昔僕がいた頃にアメ

リカのトップが日本に来た時で

も、いきなり1日8件ぐらい営業をかけていたからね。日本の金融トップでそんなことをして

いる人いないでしょ。むしろ日本

の金融業に残る慣習のほう

よっぽど問題です。年功序列、

上意下達、学閥・派閥、上に

いるほど会社の奥にこもつてで

こないとかね」

日本の金融業界に世界標準

を持ち込んだゴールドマン・サッ

ス。日本の金融業界を変えるま

で光り続けるのだろうか。

山崎養世氏

1958年生まれ。福岡市出身。東京大学経済学部卒業後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)経営学修士号(MBA)取得。大和証券を経て、米ゴールドマン・サックスに入社。本社マネージング・ディレクター、ゴールドマン・サックス投信株式会社代表取締役社長、本社パートナー、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・ジャパン・リミテッド社長を経た後、2002年独立。

「ゴールドマン・サックスで得た最も大事なことは、『最優先すべきは顧客の利益』という理念。当たり前だけとなかなかできていない会社も多い」(パシャラ氏)

その経営理念は全部で14。「最優先すべきは顧客の利益」から始まり、「高潔と誠実こそわが

「ゴールドマン・サックスの強さは、アメリカ企業らしからぬ点。アメリカでも例外的な企業と認識したほうがいい。

例えは、生え抜き社員を大事にする。性別・民族に関係なく皆平等。

チームのために汗をかくことのできる人間が評価されるとかね」

民族に関係なく皆平等。  
チームのために汗をかく  
ことのできる人間が評価  
されるとかね」

日本の金融業界に世界標準を持ち込んだゴールドマン・サックス。日本の金融業界を変えるま